

肥満・糖尿病先進治療センターの開設にあたり

肥満症や糖尿病は、心臓、腎臓や肝臓の病気、変形性関節症などの色々な病気につながる健康上の重要な課題です。近年、肥満症や肥満を伴う糖尿病の治療では、薬物治療の開発や外科治療の普及により大きな進展がみられ、今後さらなる発展が期待されています。

大分大学医学部附属病院では、肥満症・糖尿病の最先端の診断法と研究、治療を進めることを目的として、2023年4月1日に肥満・糖尿病先進治療センターを開設しました。

肥満・糖尿病先進治療センターでは、内科と外科の専門医に加え、管理栄養士、看護師や理学療法士などのメディカルスタッフがチームとなり、協同して患者さんの治療にあたります。食事や運動だけでなく、行動療法、薬物療法や外科療法など様々な治療方法で、その患者さんのベストな治療を進めていきます。

治療の中では、大分大学医学部附属病院内分泌・糖尿病内科で独自に開発したグラフ化体重日記などを用いた行動療法に、SGLT-2阻害薬やGLP-1受容体作動薬等の肥満を伴う糖尿病患者さんに対する治療薬を組み合わせた内科的治療を適切に行います。

保険診療で行う肥満症患者さんへの外科的治療は、わが国でも実施数が増えてきていますが、当院では、消化器外科と連携して肥満症や糖尿病における外科的治療を、2005年に全国の大学病院として初めて実施しました。今までに多数の実績があり、国内でも有数の肥満症や糖尿病の外科的治療施設として位置づけられています。胃を小さく切除して体重を減らすスリーブ状胃切除術などの外科治療を行っています。当院には、大分県内はもとより、九州全県、関東、関西、北陸、中国、四国地方からも肥満症の患者さんのご紹介があり、治療を行っています。

肥満・糖尿病先進治療センターは、今までの大分大学医学部附属病院におけるオリジナリティの高い肥満症・糖尿病治療の長年の歴史を背景に、さらに先進するセンターとして期待されています。

(文責：肥満・糖尿病先進治療センター センター長 柴田 洋孝 /
副センター長 正木 孝幸、遠藤 裕一)



センター長 柴田 洋孝 (写真中央)、副センター長 正木 孝幸 (写真左)、遠藤 裕一 (写真右)

総合患者支援センター長 就任のご挨拶

大分大学医学部附属病院
総合患者支援センター長

おがた まさお
緒方 正男



今年4月より、白石憲男先生の後任として総合患者支援センター長に就任しました。専門は腫瘍・血液内科と輸血学です。

総合患者支援センターは前身の地域医療連携センターの機能を拡充・強化し、2016年10月に設立されました。センターの役割は、本学の理念である「患者本位の最良の医療」を実現するため、質の高い医療サービスを提供し、総合的な患者支援を行うことです。

当センターには受付部門、患者サポート部門、地域連携推進部門の3つの部門があり、約40名の専門スタッフが活躍しています。各部門は院内各部門や院外の医療機関と連携し、初診から入院、退院後の外来通院や在宅療法まで、切れ目のない支援を提供しています。患者さんの情報は医師、看護師、薬剤師、検査技師、リハビリテーション専門職、栄養士、ソーシャルワーカーなどの多職種で共有され、円滑な検査・診療を受けていただくための支援を行っています。また、患者さんの社会・福祉に関する課題に対しては、専門性を持つ多職種による支援を行い、退院（転院・在宅）の支援も提供しています。

当センターのカウンターは患者玄関から入って正面に位置しています。患者相談窓口は病院玄関から入って右側にございます。入院が決まった患

者さんの情報収集はカウンターの入院案内ブースで行われます。医療福祉に関する相談などは患者相談窓口で受け付けています。どうぞお気軽にご相談ください。

当センターが開設され7年が経ちます。今後もさらなる患者サービスの向上を目標に、地域の医療機関との連携強化を図り、患者さんにより一層の安心と満足を提供できるサービスを展開していく所存です。スタッフ一同、一丸となって取り組んでまいります。

今後ともご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



総合患者支援センターの各窓口

整形外科科学講座 教授 就任のご挨拶

大分大学医学部
整形外科科学講座 教授 かく のぶひろ
加来 信広



令和5年4月1日付けで、整形外科科学講座の教授に就任いたしました。私は平成4年に当時の大分医科大学を卒業後、玄真堂川島整形外科病院、湯布院厚生年金病院で臨床経験を積み、その後は大学病院に勤務して参りました。私は整形外科の分野の中で、特に股関節外科や骨移植に興味を持ち、人工股関節全置換術、再置換術及び骨切り術に研鑽を積んで参りました。

整形外科は、運動器に生じる疾患を診療する診療科で、機能維持・改善を重要視し、人々が健康で豊かな生活を送るために欠かせない重要な医療分野であります。当科では脊椎・脊髄疾患、脊柱変形、関節疾患、骨・軟部腫瘍、多発骨折や骨盤骨折などの重傷外傷、関節リウマチ、骨粗鬆症、スポーツ外科や小児整形などを治療しています。超高齢社会を迎えている本邦において、「健康寿命の延伸」は喫緊の課題であり、当科ではQOL（生活の質）の改善を目指した診療を行っています。

脊椎や膝・股関節においては、早くからNavigation system（コンピュータ支援手術）を導入し、常に精度の高い手術が行えるように取り組んで参りました。また、腫瘍の分野では、自家液体窒素処理骨再建、膝関節では自家培養軟骨移植を行っています。整形外科における質の高い医療をご提供するため、私たちは、常に患者さんの立場に立ち、

今後もこれらコンピュータ支援手術や再生医療などの最新の医療知識や技術を積極的に取り入れて参ります。

最後に、常に変化し続ける社会の中で、私たち整形外科医が担う役割は、更に大きくなると実感しています。最高水準の医療を意識し、試行錯誤しながら、一人ひとりが自己研鑽を続け、協力しあうことが必要です。患者さんの健康と幸せを守るために、私は、教室員と共に、全力で取り組んで参ります。今後とも、ご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



股関節インプラント



Navigation system



手術

産科婦人科学講座 教授 就任のご挨拶

大分大学医学部
産科婦人科学講座 教授

こばやし えいじ
小林 栄仁



令和5年4月1日に着任した産科婦人科学講座教授の小林栄仁と申します。大阪大学産婦人科より赴任し、この責任ある立場に就かせていただき、大変光栄に思っております。

産科婦人科は、女性の健康と命を守る重要な役割を担っています。当教室は、最先端技術と知識を追求し、質の高い医療を提供することを目指しております。患者さんとそのご家族に対する真摯な姿勢を大切に、皆さまの信頼にお応えできるよう努力していきます。

私自身はこれまで、婦人科悪性疾患に対して低侵襲手術の導入に尽力してきました。低侵襲手術とは、従来の開腹手術と異なり患者さんの体に小さな傷を数箇所加えお腹の中にマジックハンドのような機械を挿入し治療を行う手術です。大分大学ではこの低侵襲手術を、従来の内視鏡手術に加えロボット支援下手術も行うことが可能で、患者さんの負担を軽減し、回復期間を短縮することができます。

前任地では保険適応として当時認められていなかった、子宮頸がんに対する低侵襲手術を主たる医療機関として先進医療Aとして行い、その全国データを取りまとめ保険収載するなどの取り組みを行ってまいりました。

今後も、これまで行ってまいりました、この分

野の診療、研究を進め、より多くの患者さんに恩恵をもたらすことができるよう努力してまいります。

また、次世代の産婦人科医たちに、豊富な知識と技術、そして患者さんに対する真摯な姿勢を伝えることが、私の使命であると考えております。研究活動、教育、そして臨床を通じて尽力し、皆さまが安心して受診できる環境を提供できるよう努め地域医療だけではなく日本の医療、患者さんに対する貢献も果たしていきたいと考えております。

皆さまからのご意見やご要望も大切に、より良い医療サービスを提供できるよう日々努めてまいります。



第80回 九州連合産科婦人科学会
第74回 九州ブロック産婦人科医会にて

周術期口腔機能管理

全身麻酔手術の前に口の中をきれいにすることで術後合併症が少なくなります!!

全身麻酔を利用する手術の前に口の中をきれいにしておくことはとても大切です。口の中が不潔なままだと、手術の後に肺炎などの合併症がおき、そのために入院期間が長くなってしまいます。また動いている歯があると、全身麻酔をかけるとき抜け落ちて、飲みこんでしまうなど、トラブルの原因になります。

手術だけでなく、抗がん剤治療や頭頸部の放射線治療の際にも口の中を清潔にしておくことで口内炎の悪化を防ぎ、治療をスムーズに進めることができます。

入院治療までに期間がある場合は、それまでにかかりつけ歯科医院で虫歯治療や歯周病治療を済ませておきましょう。

本院は各診療科と歯科口腔外科が連携をとって、手術や抗がん剤治療などを受ける患者さんが口のトラブルがなく、予定通りに治療を受けていただけるように尽力しています。



(文責：歯科口腔外科 阿部 史佳)

CAR-T細胞療法を開始しました

当院血液内科および小児科は、難治性の急性リンパ性白血病と悪性リンパ腫の一部に対するがん免疫療法である「CAR-T (カー・ティー) 細胞療法」を提供する診療科として2023年1月に認定されました。4月には、3例の患者さんから細胞採取を行い、現在CAR-T細胞の製造段階に入っています。

この治療では患者さんから採取したリンパ球に遺伝子改変操作を行い、CAR-T細胞を作成した後に患者さんに戻します。CAR-T細胞はがん細胞表面に発現する特定のタンパクを認識し、がん細胞を攻撃します。

この治療を行うには診療科のみではなく、細胞調整部門（輸血部）、血液浄化センターを含む高度な医療チーム体制が必要となります。本院は大分で初めて、九州で3番目、全国で40番目にCAR-T細胞療法の提供可能施設となりました。私たちは今後も遺伝子細胞治療に積極的に取り組み、先進的な高度医療を安全な体制のもと提供していきたいと考えています。

(文責：血液内科 診療科長 緒方 正男)



採取された細胞を調整しています



細胞はコンテナを用いて凍結状態で製造施設に出庫されます

あなたの声
を
待っております

良い病院になるために

患者さんの声は、要約して載せておりますので
ご了承ください。



声

中央処置室で物品をもらうだけで、30分以上も待つ。物品を渡すスタッフと処置するスタッフを分けて欲しい。診察に呼ばれるのではと気になり、ストレスになります。

回答

貴重なご意見ありがとうございます。

物品のお渡しで長時間お待たせして申し訳ございません。物品お渡しの現状を確認し、待ち時間を短縮するために検討いたしました。限られた人員で対応するため、ご提案のように常に役割を分けて対応するのは難しい状況ですが、中央処置室へ来られた際に、まずご用件をおうかがいし、物品のお渡しのみの方への対応を迅速にできるよう工夫いたしました。引き続き、待ち時間の短縮のため工夫を重ねて参りますのでご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



声

外来通院中の患者です。外来のトイレ個室の足下に荷物を置くラックのようなもの、自動精算機の横にゴミ箱を置いて欲しいです。

回答

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

外来トイレの荷物置き、自動精算機の横のゴミ箱の設置について、現状確認の上、検討いたしました。外来トイレのラック設置につきましては、狭いスペースに設置することで患者さんの転倒等に繋がり兼ねないと考えております。トイレ使用時の荷物は個室後部のスペースやドアのフック等をご利用いただきますようお願いいたします。

また、自動精算機横のゴミ箱の設置につきましては、個人情報流出につながる恐れがあるため、設置することは難しいと考えております。お手数をおかけいたしますが、明細書等はお持ち帰り頂きますようご協力をお願いいたします。

＼感謝の声／

声

皆さんの志が高いと感じました。医学生の方も「高みを目指す」心が伝わってきて、私も少しでも皆さんに近付きたいと思いました。

皆さまには大変お世話になりました。ありがとうございました。

回答

お褒めのお言葉をいただき、ありがとうございます。

患者さんより頂いた「声」を励みに、今後も患者の皆さまに安心して治療を受けていただけるよう、病院スタッフ全員で尽力して参ります。

(文責：病院長)



大分大学医学部附属病院

〒879-5593 由布市挾間町医大ヶ丘1丁目1番地 TEL 097-549-4411(代)
大分大学医学部附属病院ホームページ <http://www.med.oita-u.ac.jp/hospital/index.html>

これまでの「かけはし」は、医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。

